



特集

# 踏み出そう 学びの一步

## 春の おけいごとと 特集

みなさんは、佐賀市白山の複合施設「エスプラッツ」がおけいごとや生涯学習の拠点になっていることをご存知でしょうか。施設の2、3階にたくさんさんの教室があり、佐賀新聞文化センターが運営する約350講座が行われています。「人生100年時代」といわれるいま、学び始めるのに遅いということはありません。この春、新たなチャレンジとして学びの一步を踏み出してみませんか。

### 音楽

井上 明子 先生

日本の歌こころの歌〈エスプラッツ教室〉〈鹿島教室〉  
思い出の歌をもう一度〈エスプラッツ教室〉  
元気になりましょう〜プライベートボーカルレッスン〜  
〈エスプラッツ教室〉〈鹿島教室〉  
こころの歌・ふるさとの歌〈鹿島教室〉

「コロナ下のこの2年は山あり谷ありでした。でも、厳しい中でもここを心のよりどころに歌う喜びをみなさんと共有してきました」。こう語るのは、「日本の歌こころの歌」などを担当している声楽家の井上明子先生です。

コロナ感染が長期化する中、「講座に通ってこられるみなさんの顔を見て、心情を感じ取りながら、動くことを心掛けてきました」と話します。最初のころは、コロナとどう向き合えばいいのか判断が難しく、「やっぱり怖い」。外出は控えます」という人も。講座を休まざるを得ない期間も何度かありました。

ただ、そうした中でも生徒のみなさんの歌への情熱がなくなることはありませんでした。1週間に1度の練習日が近づくと、「教室に行かなくちゃ」とそわそわする人が多かったそうです。歌うことが生活の一部になっているからです。

井上先生には、大切にしている三つの心得があるそうです。「おしゃれをする」「背中をまっすぐに伸ばす」「人とよく話す」。年上の生徒さんから教わったもので、今は教室に通ってこれてはいませんが、その方は100歳になった今もお元気だそうです。歌は心や体に活力や潤いを与えてくれます。

教室は明るく楽しくがモットーです。1回の講座（2時間）で歌うのは、新曲を含めて10曲ほど。季節に合わせて唱歌・童謡、懐メロ、叙情歌などを選びます。いまはマスクを着用しての練習ですが、みんなと声をそろえられるのはやはり大きな喜びです。また、1対1で実施するプライベートボーカルレッスンでは、その生徒さんの個性が生かされ、よりいい形で出るように努めています。

「歌を通して人との縁があります。いいことづくめです」と井上先生。練習後、受講生からは「楽しかった」「歌った」との声があふれます。「教えているといった感じじゃありませんよ」とも。4月は「春が来た」「早春賦」などを歌いました。

佐賀新聞文化センターはエスプラッツに移って16年目です。午前10時から午後9時まで、音楽、舞踊・ダンス、美術など、さまざまな分野の講座が開かれています（82、91階の全講座案内参照）。新型コロナウイルス感染防止のため、受講者のみなさんにはマスク着用、検温・手指消毒への協力、距離の確保などを徹底してもらっています。講師の先生は実力者ぞろい。今回は5人の先生に講座の現状や魅力について語ってもらいました。





## 美術

### 大江 良二 先生

〈エスプラッツ教室〉  
楽しいデッサン入門  
日曜アトリエ  
楽しいパステル画  
大人の色えんぴつ講座  
楽しい油絵入門  
〈武雄教室〉素敵に水彩画



「絵はそもそも個人で完結させるもので、ステイホームにびったり。気分としては、コロナでネガティブなところもあったかもしれないませんが、描いている間はしっかり集中できていました。心を浄化できる部分もあったと思います」。絵画の大江良二先生は、コロナ下で絵に向き合ってきた受講者の現状をこう振り返ります。恒例となっている春、秋の屋外スケッチも休まずに実施できました。

大江先生は、絵画の基本となるデッサンや、やわらかく繊細な表現ができるパステル画、初心者でも取り組みやすい色えんぴつ画など、エスプラッツで五つの講座を開かれています。平日の教室を訪ねると、受講しているみなさんは話をせず、静かな環境の中で一心にデッサンに取り組まれています。

ただ、生徒さんによってはコロナの感染防止を強く意識し、すべてを自粛された方もいらっしゃったそうです。「ある意味、それも表現だと思っています」と大江先生。講座に通ってくる人は幅広く、子どもから上は80代までです。

小さい子どもの場合、スキルアップというより、「素材と対話してもらおうこと」を大切にしています。絵の具を手付けてスタンプしたり、「絵を描くことを怖がらないように。興味を持ったら、絵の中では何をしてもいいんだよって」。これは大人にも通じる考え方です。リンゴ一個描くにしても、人によってさまざまです。個性を教室で作るのではなく、もともと内側にある個性に気付いてもらうようにしています。

過去に絵画を学んでいた人が学び直して来られることもあれば、「ふと思いついて...」「見るのは大好きだけど、描いたことはなくて」という人が50代でチャレンジされるケースなど始める理由はさまざまです。

米国には80代になって描き始め、ピカソも認めた女性もいらっしゃいます。「いわゆるつたない絵なんですけど、それが豊かさ、温かさだったりするんですね」。どっちが優れているかは見る人が決めること。年齢、キャリアは関係ありません。

## 健康・スポーツ

〈エスプラッツ教室〉  
リズムダンス／リズムダンス（ゆっくりコース）  
〈武雄教室〉リズムダンス

### 吉牟田 久美 先生



「一曲ずつ振り付けを覚えていくので、『やった』『できた』という達成感が味わえます。みなさんの笑顔がキラキラと輝き、笑い声でほっとします」。エスプラッツ教室の開講時からリズムダンスを教えている吉牟田久美先生は、教室の魅力をこう表現します。

リズムダンスは、吉牟田先生のお母さんで佐賀県リズムダンス研究会の会長を務める吉牟田美代子さんが約40年前に発案されたオリジナルのダンスです。曲は演歌もあれば、Jポップ、Kポップなども。参加者のニーズに合わせてさまざまな振り付けを取り入れ、その幅の広さから「ダンスの百貨店」とも呼ばれています。

ダンスの上手さを競うのではなく、仲間との交流や感情表現を大切にしています。なので、振り付けを間違っても周りに迷惑をかけることはありません。一曲ずつ進んでいくので、無理をせず、自分でペース配分し、次の曲を休憩することなども可能です。

この2年間は、ほかの講座と同じく休講を余儀なくされるなどつらい時期もありました。「コロナの感染状況は本当に判断が難しいです」と吉牟田先生。感染防止に努めることは当然ですが、一方で、何もせずにじっと家に閉じこもってばかりでは健康によくありません。マスクを着用してのダンスは、最初息苦しさがありま

したが、だんだん慣れてきたといいます。

長年続けている人が多く、曲が流れ始めるとみんなが一斉に動き出すため、初めての人は戸惑うかもしれませんが、若い人から年配の人まで年齢に関係なく楽しめます。入り口の敷力月、辛抱すれば溶け込んでいけそうです。教室を訪ねた日は受講者の声も聞きました。大阪から佐賀に引っ越してきて、69歳でリズムダンスを始めたという女性は「ダンスをすると、体も気分もウキウキになります。仲間もできてよかった」と話していました。マスク越しでもみなさんの表情は明るく輝いています。



プログラミング教育「Swimmy（スイミー）」は昨年11月に開講しました。国の学習指導要領改定で、プログラミング教育は2020年度から小学校で必修化されています。2025年1月の大学入学共通テストからは、プログラミングを含む新教科「情報」を試験に加えることも決まっており、プログラミングはいま、子どもや親が最も興味関心を抱いている分野の一つです。

さまざまなセンサーと身の回りにあるものを組み合わせることによって効果的に子どもたちの自由な発想、アイデアを引き出します。先生から習うというよりは、自分の気づきでどんどん実践していきます。楽しく学びながらプログラミングの基本や応用を身に付けることができます。

「よし、うまい。もう1個やってみよう」。

体験教室をのぞくと、小学6年生の男の子が講師の山口龍聖先生のアドバイスを受けながらラジコンカーにさまざまな指示を与えていました。授業にはソニーが開発した「MESH（メッシュ）」と呼ばれる教材を使います。教材の中のセンサーを振ったら、車が前進するようにしたり、止まるようにしたり…。男の子はどんどんアイデアを出していき、最後には光に反応してラジコンカーが停止するようにしました。

お問合せ  
佐賀新聞文化センター  
カルチャー教室 TEL：0952-25-2160  
キッズスペース TEL：0952-25-2151

佐賀新聞文化センター



Swimmy  
佐賀新聞文化センター校



山口 龍聖 先生



今回紹介した講座  
や子ども教育は、い  
ずれも無料で体験で  
きます。まずは興味  
関心がある教室をの  
ぞいてみてください。  
新しい楽しみが  
見つかり、人生の幅  
を広げるきっかけに  
なるかもしれません。



教育

3階フロアが大人向け講座中心なのに、2階はこども向け教育が充実しています。数多い教室の中から、今回は40年近い歴史を誇る幼児知育教育「めばえ教室」と、昨年11月にスタートしたプログラミング教育「Swimmy（スイミー）」を紹介します。



めばえ教室  
山下 美由紀 先生



1979年に東京で生まれた「めばえ教室」が佐賀で開講したのは、その6年後の1985年で、ことしで38年目になります。

「子どもの時に『めばえ』に通っていた方が母親になり、『自分が楽しかったから、子どもにも同じように体験させたい』と来てくださる方が結構いらっしゃいます」。こう話すのは、めばえ教室佐賀教室のチーフインストラクターで指導歴26年の山下美由紀先生です。

めばえ教室は1歳児～小学低学年が対象です。独自の教材を使って楽しく遊びながら思考力や自主性、集中力、創造性を育てるのが特徴です。将来の学習の基礎を早くくむことができます。専任のインストラクター6人が子どもたちを迎えています。

例えば1歳児クラスでは、実際に手で触ったり、目や耳からの刺激を受けながら形や色などを覚え、言葉の数も増えていきます。2歳児以上については入室の時、いまだぐらい興味や経験があるかを図るIQテストを実施。1年間でどれだけ力が付いたのか、成長の素晴らしさを実感できます。

年齢に応じて、1歳ⅡあゆみⅡ2歳ⅡプレめばえⅡ3歳ⅡめばえⅡ4歳ⅡふたばⅡ5歳ⅡわかばⅡ小学1年ⅡあおばⅡ小学2年ⅡきらめきⅡと上がり、教材やカリキュラムは変わっていきます。教室は週1回、年40回が基本です。週に1つの教材を渡して授業をします。教材は自宅に持ち帰り、教室で体験したことを家庭でも復習してもらいます。

子どもたちは小学、中学、高校、大学と歩んでいくこととなりますが、「小さい時にどれだけ楽しく遊んだかによって将来が変わってきます。大事な幼児期に学習の基礎を身に付けて」と山下先生。幼いころに知ったワクワク感は簡単には消えません。